

「蓬萊の玉の枝—『竹取物語』から」

本単元で育成する資質・能力

つながる知識、思考力・判断力・表現力、主体性・積極性、深く考えようとする姿勢

単元について

○単元観

本単元は、学習指導要領「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項「(ア)文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。」を受けて設定するものである。小学校における古典の学習を踏まえ、古文を音読するために必要な、歴史的仮名遣いをはじめとした、現代の口語と異なる古文特有のきまりについての理解の定着を図ると共に、物語について生徒の興味・関心を広げながら、内容の理解を深めていくことをねらいとする。

本教材は、「竹取物語」の冒頭部分と一人の貴公子の冒険談、そしてかぐや姫昇天後の帝の行動を描いた結末部分を載せ、「竹取物語」全体をまとめ上げる形になっている。「かぐや姫」の話として、竹取物語に親しみを持つ生徒も多く、中学に入学して初めて学習する古典の文章としてもふさわしい題材であると言える。本教材に載せられている場面以外の部分についてはあらすじが現代語で掲載され、内容を断片的に知っていた生徒たちも全体像をつかみやすく、新たな発見や思いがけない展開との出会いが期待でき、上記のねらいの達成に向けて、意欲的に取り組むことができる学習である。

○生徒観

どの程度、「竹取物語」に馴染みがあるのかを把握するために、日本の昔話に関わるアンケートを取った。その結果、71名全員の生徒が「かぐや姫」、もしくは「竹取物語」の話を知っていることが分かった。しかし続けて、話のあらすじを聞いてみたところ、「竹から生まれた少女が月に帰っていく話」というように、物語の始めと結末がわかる生徒は大半を占めていたが、「五人の貴公子が美しいかぐや姫に求婚する」という、物語の主題に深く関わる場面のあらしみが抜けている生徒も多かった。そのため、授業の中では、古文ということに苦手意識を持たせることなく、面白さの詰まった、話の山場となる場面を味わい、読み深めていくよう心掛ける。

さらに、古文の基本的な知識の習得状況を調査するために、小学校5年生で学習した「竹取物語」の冒頭部分を用いて、歴史的仮名遣いのプレテストを行った結果、正答率は、23%と、基本的な知識の習得には課題が見られた。中には、テストに印字されている文字が古文だということに気が付いた時点で、敬遠したり、毛嫌いをするような様子を見せたりする生徒も少なくなかった。したがって、基礎的・基本的な知識を確実に習得させるとともに、それらを活用して、様々な古典の文章が読めるようになっていく手ごたえを感じさせたい。

○指導観

指導にあたっては、次の3点について特に留意する。

- ① **課題設定の工夫** パフォーマンス課題を予告し、古典と自分たちの生活につながりを持たせる。
・「かぐや姫」を想起させながら、「竹取物語」に出てくる5人の貴公子、それぞれに出される難題のうち、話として一番面白いのは誰の話か、という点に着眼し、学習に臨むよう指示をする。古典の中にも、現代に通じる芸術の面白さを味わうことができるよう努める。
- ② **整理・分析の工夫** 歴史的仮名遣いに注意して古文のリズムに慣れさせるため、音読活動を充実させる。
・歴史的仮名遣い等の古文の基本知識の定着を図る方法として、音読活動を仕組む。音読活動は多くの生徒と行い古文特有のリズムを体感させる。また互いに評価し合うことで、自分の音読や知識の定着状況を自ら振り返らせながら、音読活動の質をより高めていく。
- ③ **まとめ・創造・表現の工夫** 意見交流の場を設定し、課題に対する自分の考えをグループ内で発表させる。

・他の考え方と自分の考え方を交流させて思考を深め、互いに多くの考え方に触れさせる。また交流後は振り返りの場を設け、自分の考えを再構築させ、自分の考えが深まったことを実感させると共に、表現力の育成を図る。

④ **実行の工夫** 自分の考えを他者に発信し納得を得るための工夫を凝らし、パフォーマンス課題に取り組む。

- ・自分の考えをより深く、よりわかりやすく伝えるためにどのような工夫ができるのかを考えさせる。その上で、実社会の中でもよく見るチラシの作成を通じて、課題解決に取り組む。
- ・チラシは自校のオープンスクールで小学生に見せるものであると予告する。小学校段階で、「楽しむ」教材として、音読活動を中心に扱われる「竹取物語」であるが、その内容に興味を持ってもらえるような工夫を凝らし、作成にあたる。

単元の目標

学習指導要領には次のように示してある。

【第1学年 「読むこと」の目標】

目的や意図に応じ、様々な本や文章を読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身につけさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

【第1学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

これらのことから、ここでの学習を通して目指す生徒の姿を以下のように設定した。

- (1) 古典の文章の内容や表現に関心を持ち、進んで音読している。[国語への関心・意欲・態度]
- (2) 登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深めることができる。[C(1)ウ]
- (3) 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つことができる。[C(1)エ]
- (4) 古文の仮名遣い・古語の意味を理解し、古文を正確に音読できる。[ア(ア)]

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・古典の文章の内容や表現に関心を持ち、進んで音読しようとしている。	・登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深めている。 ・文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持っている。	・歴史的仮名遣いなど、文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れている。

資質・能力と評価の観点とのかかわり

本校の育てようとする資質・能力			評価の観点			
			関	書	読	言
知識	つながる知識	知	①「既習事項とのつながり」のある知識 ②「他教科・領域とのつながり」のある知識 ③「地域・社会とのつながり」を意識した知識 ④これらが整理され、「将来へ活用できる」ことを実感できる知識			
スキル	思考力・判断力・表現力	表	①比較し、関連づけて物事を考える力 ②目的に応じて根拠をもとに判断できる力 ③思考・判断に至った過程を振り返り、整合性等を検討する力 ④自分の考えを相手に納得できるよう、わかりやすく伝える力			
意欲態度	主体性・積極性	主	①自ら課題を見つけ、よりよく解決しようとする ②自ら進んで、前向きに取り組もうとする			
価値観倫理観	深く考えようとする姿勢	深	「佇む(たたずむ)こと」「はっと気づく」こと ①広い視野と細かな配慮を持って物事を捉えようとする			

		②課題解決過程を振り返り，整合性や限界性を検討しようとする ③表面に見えていないものを感じ取り，深く思考しようとする ④創造的な思考を働かせ，新たな価値を発見・創造しようとする				
	共感力 優しさ・思いやり・助け合いの心	優 こたまし，うなずくこと ①他者意見を真摯に聴き，受け止め，相手目線で考えようとする ②自己肯定感を持った上で，他者との違いを肯定的に捉えようとする ③関わり合いを通して，優しさ，思いやり，感謝の心を持って行動しようとする ④仲間と協働し，ともに高まろうとする				

単元として育てたい資質・能力のつながり

本単元の中では直接的に扱われていない4人の貴公子の話も授業の中で扱う過程で，教科書の内容を超えて，生徒の意欲・関心を喚起し，主体的に学ぼうとする態度の育成に努めたい。特に，5人の貴公子の特徴やそれぞれの話のおもしろさを考察したり，比較したりする過程で，古典教材を批判的に読み自分なりの考えを持たせるよう指導し，本校の育てたい資質・能力のうちの「深く考えようとする姿勢」を育むことを目指す。

単元の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
かぐや姫に求婚した5人の貴公子の話を読み比べ，新一年生に向けて，最も読み応えのある貴公子の話をもとめたチラシを作成する。	A 貴公子の話の中で，登場人物の言動や話の展開，構成について読み取ったことをもとに，現代との共通点や相違点を見つけ，自分の考えをまとめてチラシを作っている。
	B 貴公子の話の中で，登場人物の言動や話の展開，構成について読み取ったことをもとに，自分の考えをまとめてチラシを作っている。
	C チラシにおもしろいと思った貴公子の話のあらすじを書いている。

指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価				評価規準 (評価方法)	◇資質・能力育成場面 【資質・能力】 ◆資質・能力評価場面 【資質・能力】 (評価方法)
			関	書	読	言		
1	課題設定	○単元の流れを理解する。 ○「竹取物語」のあらすじをつかむ。 ○物語の冒頭部分を読み，古文のリズムに親しむ。	○				・古典の文章の内容や表現に関心を持ち，進んで音読しようとしている。(観察)	◇自分なりに課題に対して見通しを持ち，音読活動に取り組む。 【主-①】

2	整理・分析	○冒頭部分の内容を理解する。 ○古文の基礎（言葉の違い、省略、歴史的仮名遣い）を確認する。			○	・歴史的仮名遣いなど、文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れている。（観察）	◇音読やフラッシュカードを用いて、文語のきまりに関する理解の定着を図る。 【知一①】 ◆文語のきまりが身に付いている。 【知一①】
3	整理・分析	○「くらもちの皇子」の冒険談の部分を読み、話の展開をとらえる。			○	・登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深めている。 ・文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持っている。（ノート）	◇古文と現代語を照らし合わせながら、内容をとらえ、自分の考えをノートにまとめる。 【表】
4	整理・分析	○「くらもちの皇子」の策略が失敗に終わったことを確認し、作り話の巧みに気付く。			○	・登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深めている。 ・文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持っている。（ノート）	◆登場人物の心情や行動をとらえ、物語の展開や表現に着目して自分の考えを述べるができる。 【表】
5	整理・分析	○4人の貴公子による求婚の場面を読み、話の展開をとらえる。			○	・登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深めている。 ・文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持っている。（ノート）	【表】
6 本時	まとめ・創造・表現	○5人の貴公子の話を読み比べ、どの話が一番読み応えのあるおもしろい話かを考える。			○	・登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深めている。 ・文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持っている。（ワークシート）	◇ワークシートを用いて根拠と理由付けを書き、グループによる意見交流を行う。 【深一④】 ◆物語の内容をとらえ、自分の考えを述べるができる。 【深一④】
7	実行	○自分が選んだ貴公子一人の話について、そのおもしろさを伝えるためのチラシを作成する。			○	・登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深めている。 ・文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持っている。（ワークシート）	◇選んだ貴公子の話を中心に、物語の魅力が伝わるよう、ワークシートにまとめる。 【深一②】 ◆話の内容を要約して、物語の魅力が伝わるチラシを作っている。 【深一②】
8	整理・分析	○かぐや姫の昇天から最後までを読み、登場人物それぞれの思いをとらえる。			○	・登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深めている。 ・文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持っている。（ワークシート）	◆古文と現代語を照らし合わせながら、内容をとらえ、自分の考えをノートにまとめることができる。 【表】
9	振り返り	○登場人物と、現代の人々の考え方を比較してまとめる。			○	○ ・登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深めている。 ・文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持っている。（ノート） ・歴史的仮名遣いなど、文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れている。（ノート）	【表】

本時の学習

(1) 本時の目標

話の展開や表現の特徴について、自分の考えを持つことができる。

(2) 準備物

教科書・ノート・ファイル・サブテキスト(5人の貴公子の挑戦談)・ワークシート

(3) 学習展開 (6限目/9)

まとめ・創造・表現

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法) 【資質・能力の評価】
導入 (10分)	<p>1 既習事項とつなぐ ・5人の貴公子それぞれに出された難題を確認する。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>	<p>○前時に確認したあらすじを想起させる。</p> <p>・5人の貴公子、一人ずつの話を確認しながら、最も心をひかれた話としてどれを選んだのか、挙手をさせながら確認をしていく。</p> <p>・前時で選びきれない生徒がいないかどうかをここで把握し、必要によっては、選択の時間を取る。</p>	
<p>【ねらい】 自分が選んだ貴公子の話について、おもしろさや良さについて考えをまとめよう。</p>			
展開 (35分)	<p>3 個別での活動 ・自分の考えをワークシートに記入。</p> <p>4 グループでの活動 ・4人班で意見を交流し全体で共有する。</p> <p>5 全体交流 ・グループで出た意見を5人の貴公子を順番に整理し、発表する。</p>	<p>○個人思考で自分の考えを持たせる。</p> <p>・どうして心ひかれたのか [★主発問]</p> <p><u>記入の条件</u></p> <p>・貴公子の人名や特徴に着目させる。</p> <p>・好きな場面や表現、行動とそれに対する自分の考え。</p> <p>○グループ交流の進め方を説明する。</p> <p>○全員の考えと、そう考えた理由や根拠を交流し、互いの意見を深めさせる。</p> <p>○お互いの考えについて、納得レベルと感想・アドバイスを交流する。</p> <p>○意図的に指名する生徒に見当をつける。</p> <p>・1人目の貴公子から5人目の貴公子まで順に、出た意見を発表させる。</p> <p>・だれも選択しなかった貴公子がいた場合は、前時で、面白いと思えた箇所として線を引いている部分の確認をする。</p> <p>【石作皇子】</p> <p>・山寺の古鉢で間に合わせようとする、ずるさ。</p> <p>・歌が達人。</p> <p>・鉢を捨てた後も姫に言い寄る図太さ。</p>	<p>・登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深めている。</p> <p>・文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持っている (観察) (ワークシート)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ (5分)</p>	<p>6 交流をもとに再考</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ貴公子の話の魅力を再度文章にまとめる。 <p>7 振り返り</p>	<p>【くらもちの皇子】</p> <ul style="list-style-type: none"> スケールの大きい行動。(かけるお金・時間) 平気でうそをつき続けるタフさ。 製作者からの内部告発。 <p>【右大臣 阿部御主人】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商人のうそにだまされるお人好し。 うそを真に受けて、一人中国に向かって最敬礼。 そのままかぐや姫のところに泊まれると思っている単純さ。 <p>【大納言 大伴御行】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家来に命令する荒っぽさ。 隠れて好き勝手なことをしている家来。 結局は自分で探しに行く。 嵐に吹かれ九死に一生を得た後、好きだったはずのかぐや姫を“人殺し”とものしる逆転の行動。 かぐや姫の登場がないまま話が終了。 <p>【中納言 石上麻呂足】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高所から転倒しながらも、握りしめていたのは燕の糞。 かぐや姫からの届いた歌は、石上麻呂足の人柄に好感を持ったから。 最終的には死んでしまう。 <p>○協議を通して、深まった考えを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 選んだ貴公子の話の魅力を新たに加えたり，補足を書き加える。 <p>○本時の学習の振り返り，学習前と学習後と比較して深まった考えを具体的に書く。</p>	
	<p>【まとめ】</p> <p>④ くらもちの皇子の話のおもしろさは、最後に玉作りの匠たちが押しかけてきて皇子のうそが暴露されるころだと思っていた。しかし、話し合いを通して、かぐや姫に冒険談を信じ込ませるために、「いとわろりしかども」等と話に工夫をする場面が、現代と共通していると気づき面白いと感じた。</p>		